

子育て住宅の生活実態・生活用品調査及び子どもの行動特性調査

ミサワホーム株式会社

1. プロジェクトの目的

- ・乳幼児がいる家庭の生活用品や家電製品の種類・サイズ・量・場所を調査。
- ・震災後の意識変化や子どもの行動特性、家庭内事故の種類や発生場所の調査。

2. 実施方法

- ・自宅訪問調査
 - ①ヒヤリハット・収納
- ・WEB アンケート調査
 - ①ヒヤリハット・収納
 - ②避難時の不具合
 - ③子どもの行動特性

3. 結果と考察

[結果1]

- ・ 子どもの主な生活場所はリビング。成長するにつれ、ダイニング・和室・子ども部屋へと生活範囲が広がっていく。

表1 子どもの居場所調査結果

子どもの年齢	滞在場所	人数
0 歳	LD のみ	5
	LD&和室	1
1 歳	LD のみ	10
	LD&和室	8
2 歳	LD のみ	7
	LD&和室	9
3 歳	LD のみ	3
	LD&和室	4
4 歳	LD のみ	5
	LD&和室	5
5 歳	LD のみ	1
	LD&和室	3
6 歳	LD のみ	1
	LD&和室	2
	LD&和室&子ども部屋	1
7 歳	LD のみ	1
	LD&和室	5
	LD&和室&子ども部屋	3
8 歳	LD のみ	1
	LD&子ども部屋	4
9 歳	LD&和室	2
	LD&子ども部屋	1
13 歳	LD&子ども部屋	1

0～4歳：LD 中心に滞在

1歳～：和室へと行動範囲が広がる

6歳～：子ども室への移行がはじまる

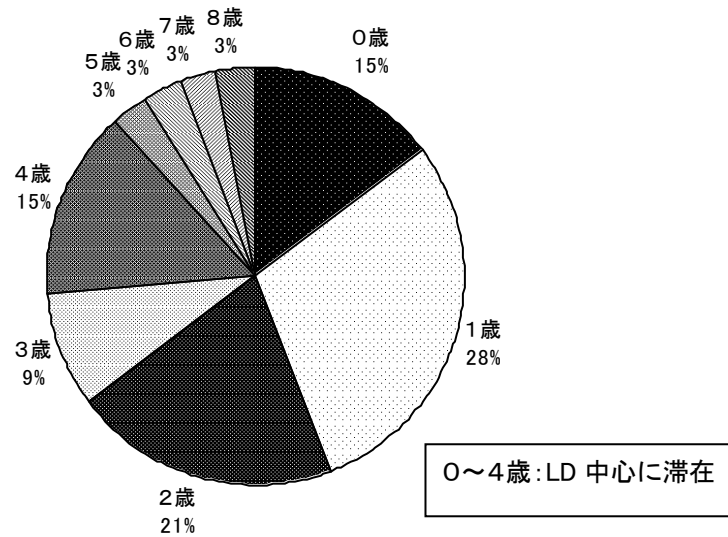


図2 『LDのみ』 に滞在する子どもの年齢分布

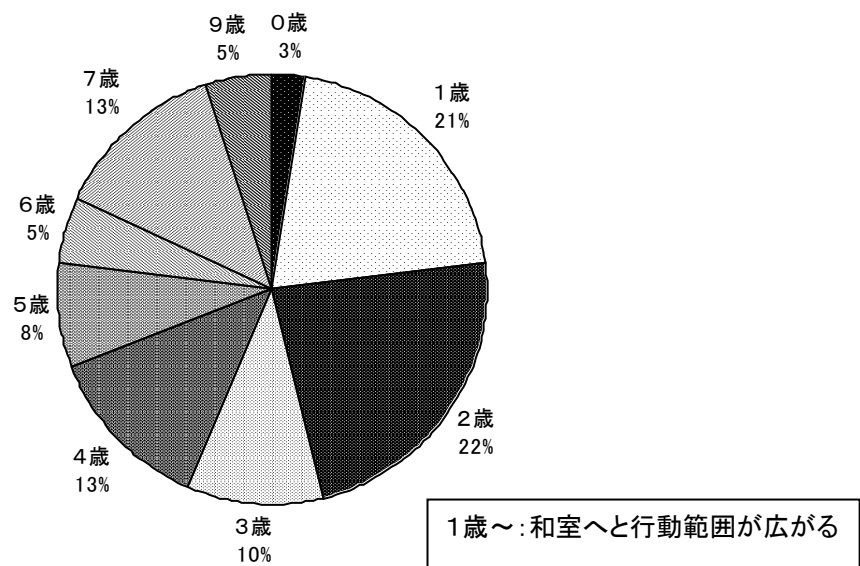


図3 『LD&和室』 に滞在する子どもの年齢分布

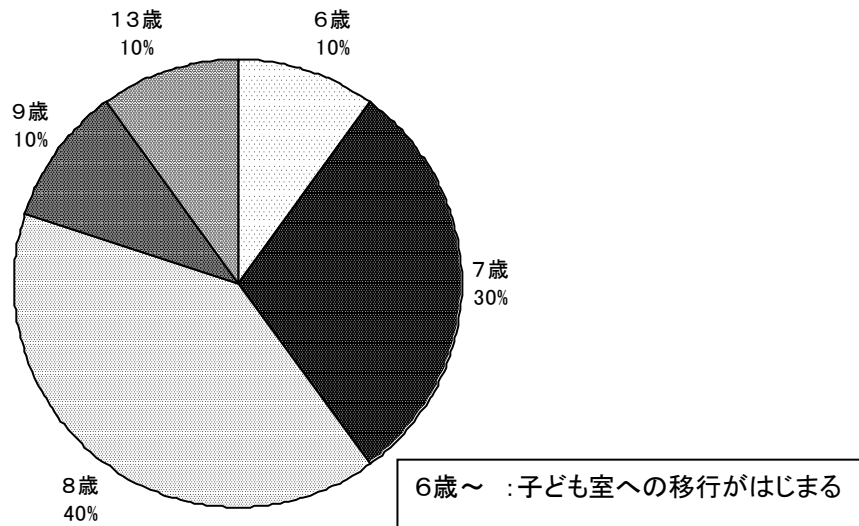


図4 『LD&和室&子ども部屋』に滞在する子どもの年齢分布

[結果2]

- 震災以降は、家庭内事故予防+防災の視点が住まいに求められている。特にキッチンへの対策が重要。

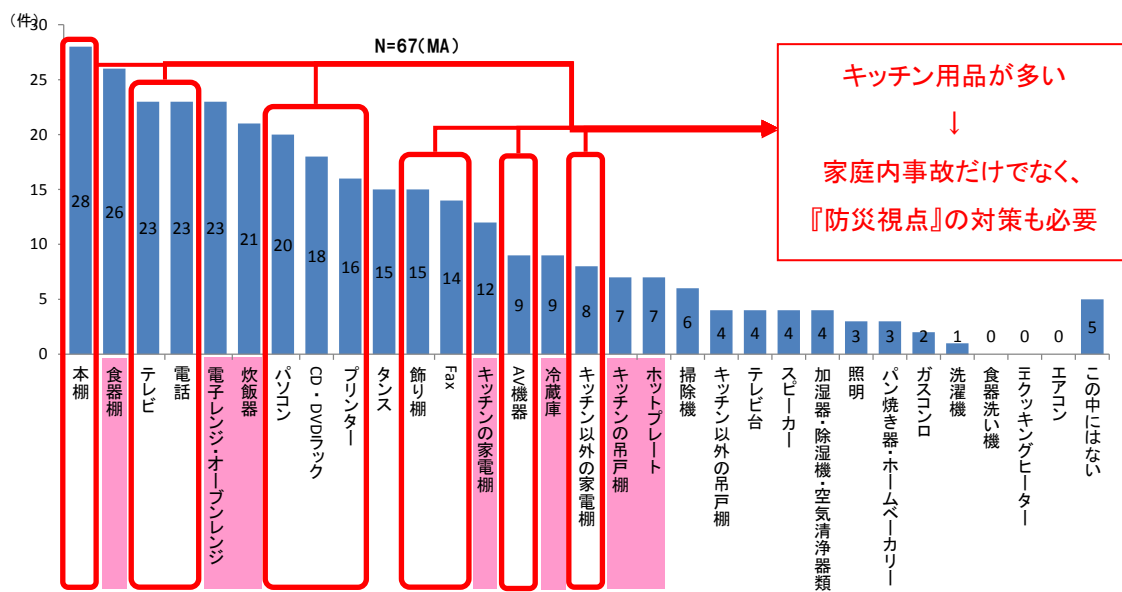


図5 震災時に転倒・転落してきたもの

[結果3]

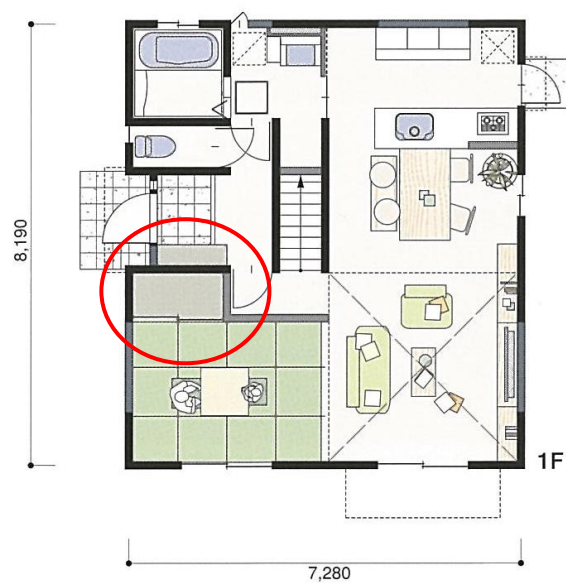
・子どもの物は平均して押入れ収納ケース20個分有り、収納スペースが不足。生活用品を収納する為の家具や適切な場所に収納しきれなかった小物が多く、家庭内事故を誘引。

表1 子どもの収納物調査集計表

モニターNo	ベビー			幼児		学童期		その他													計
	ベビー布団	ベビーチェア・フェンス	ベビーバス・スケール	ベビー衣類	ベビーおもちゃ	幼児期衣類	幼児期おもちゃ	学童期衣類	学童期おもちゃ	季節のイベントグッズ	バッグ	おもつ	子どもの写真・動画	副教材	学用品	スポーツ用品	食器	靴・傘・乗り物	楽器・ゲーム・趣味品	子ども作品	
No.1	1			3	2	0.5	2.5	3.5		1			1.5	0.5	1.5				3	0.5	20.5
No.2	1			1	0.5	1	0.5	1.5	1	1				0.5			2	0.5	1		11.5
No.3	2			4.5	3	3.5	9			3					4		2	2		2	36
No.4				1	2		1.5	1		2	0.5	2			1		0.5	2		0.5	14
No.5	1			1	0.5	2	5.5			1	0.5	0.5	0.5	0.5	2	1			0.5	1	17.5
No.6				2.5	3	2.5				1	0.5			0.5	1		0.5		1.5		13
No.7		2		0.5	0.5	2	0.5			2	0.5				1		0.5				9.5
No.8			1	2	2	1	4					1.5	1	3	1		0.5		0.5		17.5
No.9	2			0.5	2					0.5				1	0.5		1	2	0.5		10
No.10		3		0.5	2	1	1.5			2				1					0.5		11.5
No.11	2.5			3	2	4	3			1.5			0.5	0.5		0.5	3	1			21.5
No.12							2	5	5	1			0.5	3	2	1.5	1.5	0.5	6	1	29
No.13	1			1		2.5	10.5			0.5	1				0.5	0.5	1.5	3		1	23
No.14	2			5	2		3.5			1.5	0.5			0.5		0.5	2.5	2			20
No.15	1	3		3	2	3	4			3	2		1	1.5			4.5	1			29
No.16	1			1	2			2	6	2		1	0.5	1			3.5	3		0.5	23.5
No.17	1			0.5	5		3.5			4				1	1		0.5				16.5
No.18	2	2.5	1	3	2	1				4				0.5	0.5		2				18.5
No.19	2			2.5	4.5	0.5				2.5			0.5	1			4	0.5			18
No.20											0.5			4				1.5	1.5		7.5
No.21				6	4	4	1	3	3.5	4.5	1.5		1		3	1	4.5		2.5	1	40.5
計	19.5	10.5	2	41.5	41	28.5	52.5	16	15.5	38	7.5	5	7	20	19	5	34.5	19	17.5	7.5	407

※ 乳幼児期の衣類・おもちゃと季節のイベントグッズが多い。

※子どもが複数いる家庭が多く、様々な年齢の子ども用品が同時に家に存在している。



造り付け収納は押入一畳のみ（押入れ収納ケース約20個分）



生活用品を収納すると、子ども用品すべては押入れに収納しきれない



収納できなかったモノが家庭内事故の大きな要因となっている

図6 標準的な子育て住宅プラン

[考察]

- ・キッチンには危ない場所という意識があり、家庭内事故については日頃から気をつけている母親が多いが、地震対策にまでは至っていない。
- ・震災時、割れた食器が避難経路を塞ぎ、子どもを連れての避難が困難なケースが多く見られる。
- ・キッチンの扉裏面にある包丁差しは使用していない家庭が多い。子どもに危険な場所にもかかわらず、標準的な収納場所としていることに疑問を感じている母親が多い。
- ・ドアへの指挟みや窓からの転落に対しては、市販グッズを用いての対策をしている家庭が多い。玄関ドアは重量が重く子どもの力では操作がしにくい点、手をはさむと重症になる点を気にしている。
- ・通常は安全な高さの窓でも、窓の下に家具を置いてしまっていることで、転落しやすくなってしまっているケースが多い。危険性を感じながらも家具レイアウトは変更しないでそのままにしているケースも多い。家具配置を想定した住宅設計が今後は必要。
- ・前回の調査と同様、サッシ錠を誤って子どもが閉めてしまい、親が部屋に戻れなくなるケースや、ソフトクローズ機能がかえって子どもの指挟みを誘発しているケースが見られる。
- ・子どもの滞在時間が長いリビングに、最も生活用品も集中している。リビングに置かれる家電の種類も大変多く、子どものいたずらも多数発生している。

4. 今後の展開

- ・家庭内事故予防+防災の視点で住まいの安全対策について分析を継続。